



令和7年度

青少年からのメッセージ

テーマ 平和を感じて暮らせるまちにしていくために
自分たちにできること

広島市

はじめに

「青少年からのメッセージ」は、様々な形式での自己表現を通して、青少年の人格形成を図るとともに、地域における青少年の健全育成に対する関心を高めることを目的として、平成十二年度から毎年、作文や漫画・イラスト形式のメッセージを募集しており、令和七年度で二十六回目を迎えるものです。

今年度は、被爆八十周年という節目を迎え、「一人一人が平和を願い、そのために自分ができることを日常生活の中で実践することは大切である」との考えから、「平和を感じて暮らせるまちにしていくなために自分たちにできること」をテーマとし、日々の暮らしにある身近な平和に目を向け、地域での自身の関わり方や役割について、これまでの経験や将来の夢なども交えて表現した作品を募集したところ、小学生から高校生までの青少年から、一万四百点の応募がありました。

今回の作品には、まちを支えている地域の方への感謝の思いを題材にしたもの、地域での経験を通して世界平和の実現にまで視野を広げたものなど、様々な作品が寄せられ、平和への思いや地域における自分自身の在り方が、それぞれの成長段階に応じて表れたものとなっています。

こうした青少年からのメッセージに込められた思いを、作品を御覧になられた全ての人々の心に届けるとともに、これからの時代を創る青少年が、社会を構成する一員としての自覚を持ち、自分の能力を精一杯発揮しながら、成長していくための契機となるよう、応募作品の中から、この度入選した五十五作品を作品集としてとりまとめました。

目次

《作文部門》

小学生の部

.....

3

中学生の部

.....

25

高校生・一般の部

.....

41

《漫画・イラスト部門》

.....

55

《作文部門》

小学生の部

21

作品

おかげ様の力

《小学生の部 金賞》

千田小学校六年 寿美 知優

おかげ様という言葉聞いたことがあるだろうか。

私の祖母はよく

「おかげ様で元気にさせてもらってます。」

と言う。聞く度におかげ様とは何なのか気になり、祖父に聞いたことがある。元は仏教用語で、見えないものに感謝するような言葉だったそうだ。

私達の周りには、見えないところで努力している人がたくさんいる。お米を作ってくれる農家さん。病院で働いている医師や看護師さん。たくさんの方が社会を支えている。私達人間は一人では生きることができない。だからみんなで助け合う。誰かに助けてもらいながら私達は生きている。私達が生きている世界は、誰かの努力の上で成り立っている。

「おかげ様」その言葉は社会のために努力している誰かに感謝する言葉だと思う。私は、おかげ様という気持ちを大切にして、今できることを精一杯する。それが、回り回って誰かのおかげ様になったら良い。その小さな一歩が、平和なまちを作るのではないか。

手で包みこめるような平和を

《小学生の部 銀賞》

五日市南小学校六年 坂井 日向子

私は、「平和」という言葉に実感がわいてきませんでした。平和と考えると核兵器はい絶や世界平和などスケールの大きいものしか思いつけませんでした。

でも、ある時、同じ学校の低学年の子に朝のあいさつをすると、元気な返事が返ってきました。その時私は心がじんわり温かくなりました。そして、もしかして、平和ってこれと同じなんじゃないだろうかと思いました。

平和っていうのは、人の善の行いが一つになった塊みたいなもので、その小さな小さな手で包みこめるくらいの平和がそのうちの一つ。日常にあふれている平和の欠片を残らずつかみとって、大切にとっておけば身近が平和であふれる。人と話せる、好きな事ができる、安心して暮らせる。平和ってこんな近くにひっそり隠れていたことを、あいさつという小さな平和で見つけることができました。

もちろん、小さな平和を見失ってしまった国を、子供である私達は元には戻せません。けれど、身近にある、手で包みこめるような平和を、私は広島町の町に残していきたいです。

ぼくサイズの平和

《小学生の部 銅賞》

青崎小学校四年 筒井 吾郎

広島にひっこしてきて、せんそうや原爆く、平和について聞く事が多くなりました。ぼくにとつての平和とは、「幸せ、安心、安全」です。幸せを感じるのは、おいしいごはんを食べる時。友達と公園で元氣いっぱい遊ぶ時。学校でべんきょうができる時などが、思いつきます。また、家ぞくでがんじょうな家に住むと安心します。交通ルールを守って安全に登下校しています。今は、家ぞくや地いきの人、学校の先生など「大人」が守ってくれているので、とても平和にすごしています。

子どものぼくができる事は、まだ小さいけれど、例えば公園でゴミをちらかさない。ゴミは持ち帰って分別してから捨てる事です。他には、道で会った人には元氣な声であいさつする事です。

地いきの行事やお祭りに、自分からさんかしたり、手つだうのも町のためにできる事だと思ひます。一人ではむずかしい事でも、友達といっしょに協力したら、みんなの平和に近づけるはずです。

人と人をつなぐ「橋」

《小学生の部 銅賞》

石内北小学校六年 山根 遼大

みなさんは日常生活であいさつをしていますか？あいさつはとても大事です。ぼくは、あいさつが平和を感じて暮らせる町にしていきたいために、とても重要なことだと考えています。

ぼくは、生活委員の委員長で、ほとんど毎日校門の前であいさつをしています。あいさつを返されると、とてもうれしくなります。ここで質問です。あいさつとは何だと思いますか？ぼくは、人と人をつなぎ、ひとを大切にするための「橋」のようなものだと思っています。だれでも、あいさつをされて明るい気持ちになったことはあると思います。明るい気持ちになったということは、大切にされているということです。あいさつには、人を大切にする力があります。ぼくの考える平和は、たがいに認め合い、大切にしたいことです。たがいにあいさつをすることで、その平和に一步步近づけることができます。

あいさつをすると、町を明るくすることにもつながります。みなさんも、今日からあいさつを始めましょう。

しあわせとえ顔があふれる広島へ

《小学生の部 入選》

安西小学校四年 吉田 芽那

わたしが、平和を感じてくらすためにできることは、地いきやまちを大切にすることです。地いきの行事や当番にさんかすると、まちがゆたかになって、みんなときょう力していけると思うからです。例えば、町内運動会にさんかしていた時、色々な人と関わって楽しくなりました。地いきの当番はまださんかしたことがないので、これからさんかしてみようと思います。みんなときょう力することは、仲良くけんがが少なくなるきっかけになると思います。

もう一つは、人との関わりをふやすことです。関わりをふやせば、気持ちの良いことがふえます。当たり前のことを礼ぎ正しくすることも大切にしたいです。なぜなら、気持ちの良いあいさつをすると、心が晴れて話しくいことも話しやすくなつて、みんなとの関りも少しづつ良くなつていくと思つたからです。

わたしは、平和にくらせるまちを目指して、自分ができることにはゆう気を出してさんかしてみようと思います。

小さなやさしさが平和にかわる

《小学生の部 入選》

大芝小学校五年 有吉 羽瑚

みなさんは平和について考えた事がありますか。せんそうはあるけど、関係ないからいっか。と思っていませんか。もう一度考え直してみましよう。

私は、まちを平和にするには、一人一人のやさしさが大切だと考えます。たとえば、学校でこけた子がいたから、ほけんしつにつれていつてあげた。勉強を友だちに教えてあげた。などの小さなやさしさを大切に使っています。

私なぜそれを大切にするのかには理由があります。それは一年生のころでした。こけてこまっていたとき六年生のお姉さんが助けてくれました。そこからやさしくする。ということの大切さに気づきました。それから、四年がたって五年生になっても大切にしています。

このような「小さなやさしさ」が私たちのことを助けてくれている。だから、小さなやさしさが集まることによって、やさしさに助けられる人がふえ、平和になり、事けないの楽しい日々がつづくと考えます。

みんなで平和な街を作ろう！

《小学生の部 入選》

可部南小学校五年 成相 希子

平和で安心してくらせる街にするために、私たちにできることはたくさんある。まず大切なのは、近所の人たちと仲良くなること。道で会ったら「おはよう」って元気に言ったり、困っている人がいたら「大丈夫？」って声をかけたりして仲良くなろう。地域のお祭りやイベントにも積極的に参加すると、みんながお友達になって、困ったときには助け合える、温かい街になるはず。

次に、みんなの違いを大切にすること。男の子も女の子もおじいちゃんも子どもも、違う国から来た人も、それぞれ違うところがある。でも、その違いを「面白いな!」、「すごいな」って思って、みんなで認め合おう。色々な人の話を聞くことで、新しい発見があるかもしれない。

それから、街をきれいにすることも平和につながる。道に落ちているゴミを拾ったり、公園の花に水をあげたりして気持ちのいい街をみんなで作ろう。街がきれいだとみんなの心も気持ちよくなるはず。だから少しずつみんながすることだみんな平和だと感じられる。

平和を感じるまちにするために

《小学生の部 入選》

原南小学校五年 久田 夏帆

わたしは、温かいご飯が食べられたり学校へ行って勉強ができたりする日常が平和で幸せだと感じます。だけど、もっとみんなが安心してくらせるまちにしたいと思います。そこでわたしでも出来ることを二つ考えました。

一つ目は、相手の話をよく聞くことです。そうすれば、いろんな考えに出会えるし、友達と協力できるからです。これから、いろんな考えの人に出会うから、相手の話をよく聞くことはずっと大切だと思います。二つ目は、あいさつをすることです。理由は、自分だけでなく、相手の心もいい気持ちになって、心と心がつながるような感じになると思うからです。通学中、学校生活などで知らない人にも元気なあいさつをしたいです。

わたしは平和を感じてくらせるまちにするために、このような自分出来ることから取り組んでいきたいです。小さなことでも少しずつ積み重ねると、まちの平和を感じる一步になると思います。

自分たちが出来ることから平和の町を

《小学生の部 入選》

原南小学校五年 船越 美有

みなさんは暮らしている中で、平和を感じることはありますか。平和を感じる町とはどのような町か、私の実際にあったエピソードをもとに考えてみます。

私は、おばあちゃんが学校に行きたくない泣いている子や、困っている人に声をかけてあげるところを見て、私も、年れい関係なく困っている人がいたら、やさしく声をかけてあげることが、平和を感じて暮せる町にしたいために自分たち出来ることだと思いました。また、お母さんから、「お母さんが小学生のころ、通学路で拾ったゴミを持って帰っていたよ。」という話を聞いて、私もお休みの日にゴミぶくろを持って、家族でゴミ拾いをしてみたいと思いました。

いつもは人としやべるのが苦手だけど、困っている人がいたら声をかけてあげたり、ゴミ拾いをして少しでもいつも気持ちよくすごせるように、出来ることから平和の町をつくりたいと思います。

元気いっぱいの平和な街へ!!

《小学生の部 入選》

鈴が峰小学校五年 児童

わたしは、すがみねという街に住んでいます。そのすがみねのいい所は、毎朝登校時に見守り隊の人達が、あいさつをしてくれる事です。ありがたいと思っています。また、不しん者などが少ない事もそうです。

そんなすがみねで、わたしが平和のため取り組んでいこうと思う事があります。それは、すがみねの行事に自分が積極的に参加する事です。理由は、三つあります。一つ目は、わたしは仲よくなる事は、平和につながると思ったからです。二つ目は、積極的にすがみねの行事に参加する事で、行事を作ってくれた人や役員の人、いつも登校下校を見守っている人に感謝やが伝えられると思ったからです。三つ目は、行事に参加して、自分の笑顔をみんなにとどけるとみんなも笑顔になると思い、また、そのみんなの笑顔が平和につながると思ったからです。

このように、自分がいろいろな行事に、積極的に参加して、すがみねを元気いっぱいの平和な街につなげていこうと思います。

違いの認め合い

《小学生の部 入選》

千田小学校六年 上里 文乃

あなたにとっての平和はなんですか。みんなとの違いを認め合うこと、これが私の思う平和です。

私は野球が好きなのですが、応援チームの違いを巡って、友達と喧嘩をしてしまったことがあります。このとき、どちらもとてもし怒っていて、喧嘩が終わった後も少し気まづかったです。喧嘩の後、先生は応援チームの違いを貶すんじゃないかと、認め合うことが大事だと言っていました。この喧嘩以降、私のクラスではチームのいいところを見つけあったりして、野球での喧嘩はほとんど無くなりました。なので私は違いを認め合うことが大事だと考えました。

今の世界は宗教などの違いがあるから差別するといったことが起きています。これに対し、私はこのようなことをするのは、違いを認めていないからだと思います。違いを認め合ったら、このような戦争は起こらないはずなのにどうしてそうするのかと思いました。

だから私は違いを認め合うことが大切だと思いました。

菊がつなぐ地域のきずな

《小学生の部 入選》

伴南小学校六年 池永 沙紀

私の通っている小学校では、創立以来ずっと命をつないできた菊を育てる活動を、六年生が、菊ボランティアの方と、地域の方と一緒にしています。

今年で、二十三代目の菊を育て始めました。先代の六年生の育てた菊の新芽の先の茎を切り、さし芽を作り、これから育てていきます。

これまで手伝って下さっている菊ボランティアの方や、地域の方からお話を聞きました。菊は育てる人が愛情をかけて、しっかり水やりなどの管理をし、大切にお世話をすると、大きなきれいな花を咲かせてくれるそうです。

私は、今から育てる菊が、大きなきれいな花を咲かせることを想像すると、ワクワクしてきました。大切にお世話しようと思います。

秋には、学校で、菊ボランティアの方、地域の方、保護者の方を招待して、菊まつりを開きます。日頃の感謝の気持ちを込めて、皆さんを、ワツと喜ばせて笑顔にしたいです。

笑顔の先には、幸せと平和があります。私はまず、自分達の地域を、笑顔あふれる平和な地域にできたらいいなと思っています。

残して、伝える

《小学生の部 入選》

青崎小学校六年 内海 雫

私が平和を感じて暮らせるまちにしていくために自分たちにできることだと思うことは、戦争などを体験したものを残して、それを伝えることだと思います。

私は五年生のときに、戦争と似島のことについて、調べました。そして、野外活動で似島に行ったとき、たくさんの方に戦争の話を知ったり、戦争の被害を受けたものを見せてもらいました。ユーハイム似島かんげい交流センターの方のお話、被爆したくすの木じいさんなど、戦争と似島に関係することがたくさん学べました。この学習のおかげで、私と私のグループは、戦争と似島についてまとめあげ、家族に発表することができました。

このように、戦争などを体験したものを残して、伝えるということは、平和を感じて暮らせるまちにしていくなかで大切なことなんだと思います。残して、伝えていけば、また新たな人たちが残して、伝えていってくれると思います。そして世界中で平和を感じて暮らせるまちが増えていくようにしたいです。

平和な町を作るには

《小学生の部 入選》

矢賀小学校六年 新山 莉心

私は、平和に暮らせる町を作っていくためには、明るく住みやすい雰囲気のある町を作っていくことが必要だと考えます。

例えば、私たちの学校では、ずっとあいさつを取り組んでいます。そんな明るい声が学校中にひびきわたって楽しい学校になっています。このように、知っている人、知らない人、どんな人に対してもあいさつをすること、町全体に、笑顔の花がさき、平和の輪をつなげていけると私は思います。

他にも、私たち矢賀の町は、地域の人々が私たち子どものために、見守りをして下さったり、地域の人々がイベントを開いて下さったりと、矢賀の町をより楽しく安全に暮らせるように、たくさん考えて下さっています。こんな風に、地域の人々は、子どもたちのために協力して下さい、緑ゆたかできれいな矢賀の町を作して下さいます。

このように、平和な町を作っていくためには、たくさんの人々と仲良くし、元気よくあいさつをすることで、平和への道を作っていけるのです。

ありがとうの気持ち

《小学生の部 入選》

早稲田小学校六年 高谷 莉里

私が考える「平和なまち」とは、まちのみんなが優しさを持っているまちです。

困っている友達がいたら「大丈夫？」と声をかけたり何か手伝える事がないか考えるようにしています。学校でペアを組んでいる一年生と遠足に行ったり体力テストをする時には、サポートをしています。委員会活動をしている時に、同じ委員会の五年生が困っていたら声をかけて助けるようにしています。

こうして誰かの事を思って行動をすると、必ず「ありがとう！」と言われます。

逆に、私が友達に何か物を借りたり、分からない事があった時に助けてもらった時には「ありがとう！」と言うようにしています。

みんなが「ありがとう！」と言えるのは、言った人も言われた人も良い気持ちになるとみんなが思っているからで、これは優しさだと思います。こういう優しさがまち全体に広がれば、みんなが平和に暮らせると思います。

だから、私はこれから「ありがとう！」とたくさん言われるようにして、「ありがとう！」とたくさん言うようにしたいです。

身近な人の顔と名前を覚えよう

《小学生の部 入選》

瀬野小学校六年 田中 栄都

平和を感じて暮らせるまちにするには、近所や地域に住む人たちの顔と名前を覚えておくことが大事だとぼくは思います。きっかけは、五月に母が働いているまちで発生した不審者事件でした。ぼくは登校班の班長ですが、班のメンバーの顔と名前がうる覚えな上、クラスもはあくしていなかったので、もし自分のまちでこんなことが起きて一斉登下校することになったら絶対困るだろうなと思いました。むかえに行くことも名前を呼ぶこともできないからです。そこでぼくは、朝、集合場所に一番に行つてメンバーの名札を見て、顔と名前を覚えめました。それから、登下校の時間帯に在宅の近所の人と、集合場所近くにいて見守り隊の人の顔と名前も覚えめました。これで、いざという時、だれも置き去りにすることなく、相談できる人をすぐ呼びに行くこともできます。

ぼくの住むまちは今たくさんさんの住宅ができて転入者が増えています。安心で安全な住みよいまちを目指して、関わる人の顔と名前を覚え、よい関係を作っていきたいです。

一歩前へ踏み出す勇氣

《小学生の部 入選》

古田小学校六年 長友 花梨

家では「困っている人や大変そうな人がいたら助けてあげるんだよ。」そう教えられてきた。そう言われてきて分かったと口では言っていた。でもいざそんなことが起こると声をかけることもできず前に踏み出すことすら出来なかった。ただ通り過ぎていくだけ、見ているだけのことしか出来なかった。

そこで変わろうと強く決心した。困っている人や大変そうにしている人がいたら手を差し伸べるべきだと。そして誰もが暮らしやすい町にするために前に一歩でも踏み出すべきだとそう心に刻んでいこうと思った。

ある日学校から下校している時、おばあさんがとても疲れているようにしんどそうな表情をしていた。そこであの時の事を思い出した。声をかけようと思い、「大丈夫ですか。」そう口にした。するとおばあさんの顔は少し元気な表情へ戻っていった。「声をかけてくれてありがとう。少しは元気になったよ。」そう笑顔で返してくれた。

その時勇氣を振り絞っている事は気持ちがいい事だと思えた。この気持ち、回り回れ。

ちよつとの勇氣と優しい言葉

《小学生の部 入選》

千田小学校六年 松下 さゆり

私にとつての平和は、友達がいる事です。今まであつた、悲しい事も辛かつたことも、友達がいたから乗りこえられたと思うからです。

私が平和と、感じる瞬間は友達と遊んだり喋ったりする時間です。今そう思えるのは、きつと今までの出来事があつたからだと思います。私が、学校を長い間休んでいた時に友達はいっぱい手紙をくれました。手紙には、

「いつでも待つてゐるから無理しないでね。」

そんな優しい言葉をいつも書いてくれました。優しい言葉がたくさん書いてある手紙をいつも送ってくれてすごく心の支えになりました。小さな事かも知れないけど、それが私にとつてはとても嬉しい出来事でした。

短い言葉でも、ほんの少しの優しさでも、思いやりの気持ちを持つ人が増えたらきつと平和へ繋がると思っています。だから私も友達が言ってくれた言葉のように周りの人に優しい言葉をかけて平和へ繋げていきたいです。

身近なことからできるまちの平和

《小学生の部 入賞》

幟町小学校六年 宮 崇一朗

僕は、「平和を感じて暮らせるまちにしていこう」ために自分たちにできることは、交流していくことだと思う。交流を通して、仲を深めると笑顔が増え、まちが幸せになる。だから、僕はそうのように考えた。

僕は、剣道を習っている。他の道場の子と話したり、一緒に試合に出たりすることで、互いに切磋琢磨できる良い仲間ができた。住んでいるまちなどはちがうが、自分のまちとその他のまちも平和になることで、そのようなまちがどんどん増え、広がっていくと思う。そして、交流の他にも、まちを自分たちで盛り上げていくことも大切だと思う。僕は、まちを盛り上げていくために、積極的に、まちの行事やイベントなどにも参加していききたい。また、自分がやっている習い事に、友達をさそってみるのも良いかもしれない。

このように、平和に暮らせるまちにするためには、交流と、まちを自分たちで盛り上げていくことが大切だと思った。そうすることで、まち全体が平和で、元気になると思う。

必要な対立

《小学生の部 入選》

大塚小学校六年 宗澤 羽衣

人と人が集まって一つの目標を達成させようとすると、意見の対立が必ず起こります。これはその人達が本気になればなるほど、回数は増え、一つ一つの議論がヒートアップします。この対立は、当事者からすると、作業をスムーズに思い通りに進めることが出来ないため、とても無駄なことに感じてしまいます。しかし、私は、この対立こそが力を合わせて物事を進める上での素晴らしい事だと考えます。4年生のころクラブ活動でチーム内で意見が対立したことがあります。原因は練習方法という小さな事でした。一度は目標を諦めかけようとなりましたが、これを機にお互いの考えを深く聞くことができ、前より団結を強くすることができました。

この経験から、一つの事について対立が起こった時は、そこで思い通りにならないからと放棄するのではなく、それをきっかけに、相手のことをもっと深く知ってよりよくしようと考えています。

まずは身近な人との良い関係が、平和を感じ暮らせるまちづくりにつながっていくと思います。

平和っていいな 笑顔っていいな

《小学生の部 入選》

草津小学校六年 森川 景莉維

わたしのおばあちゃんは公園の清掃活動をしています。おばあちゃんは毎朝はやく起きてそうじをしています。ある日、わたしは疑問に思いました。「なんで他の人はそうじをしていないのにおばあちゃんはそうじをしているのだろう？」その答えはすぐにわかりました。おばあちゃんがそうじをしていると、近所の人「いつもそうじをしてくださってありがとうございます。」といっていました。おばあちゃんは笑顔でした。おばあちゃんがそうじをしている理由、それはみんなに感謝されとうれしいからだと思いました。学校が終わってみんなが公園に遊びにきます。遊んでいるときのみんなはとても笑顔でした。おばあちゃんがそうじをしている理由の二つ目はみんなの笑顔だと思いました。みんなの笑顔を見ると、やりがいがあると思いました。おばあちゃんがそうじをしているのは、感謝されたり、みんなの笑顔を見て、やりがいを感じているからだと思いました。今、わたしはおばあちゃんといっしょに公園そうじをしています。平和っていいなと思いました。

《作文部門》

中学生の部

15

作品

言葉をかわして平和なまちに

《中学生の部 金賞》

城山北中学校一年 竹本 愛実

平和を感じて暮らせるまちにしたいために私ができることは、地域の人と知り合い、あいさつをすることだと思う。

私の住むまちは、十一年前の八月二十日に土砂災害があったまちだ。以前の授業で、この地域がどうなっていたってほしいかをインタビューしたことがある。すると、「八月二十日の土砂災害のときに地域の人と知り合っていたら命を助けられたのに。」という意見や、「地域のつながりを強くしてほしい。」という意見がとても多かった。たしかに、地域の人々が協力しないとできないこともたくさんあった。祭りや清掃活動、見守り活動だ。私たちの生活は、これらによっても支えられている。私は、地域の人々とのつながりや、協力がいかに大切か、実感した。

インタビューしたあと私は、地域の人に、あいさつをしたり、積極的にかかわるようになっていく。あいさつ一つで、少しの会話もできるようになった。私はその時自然と笑顔になる。地域の人々と言葉をかわすことも、平和なまちにするための一歩だと私は考える。

多様な世界とは

《中学生の部 銀賞》

A I C J 中学校二年 新田 秋桜

平和を感じて暮らせるまちにしていくなために私は多様性の理解と受け入れが大切だと思います。なぜかというとなんな障害者とそうでない人のように知らず知らずのうちに人を区別しているからです。だから私はかわいそうだからという理由で仲良くしてあげている世界をなくしたいです。

私が通っていた小学校には、難聴や言語障害をもつ児童を特別に指導する教室がありました。そして私の友達にも難聴の子がいました。その時私は「悩みとかあるの?」と聞きました。そうしたらその子は障害に対する社会の理解がうすいのかかわいそうと思われるのが悲しいと言いました。この話を聞いて私は少しドキツとしました。なりたくなっているわけじゃないのかかわいそうだなと少しでも思っていたからです。それから私は人を見た目で判断しないようにしました。人の内面は見た目だけでは判断できないからです。

これから平和な世界をつくっていくために多様性を受け入れるだけでなく受け入れ方を変えていきたいと思います。

すぐそばにある資料

《中学生の部 銅賞》

A I C J 中学校二年 松浦 朱音

私は、かつて原爆の被害にあった広島のまちで暮らしています。「どうすればこのまちを平和で溢れる場所にできるのか」という問いに対し、私は「自分なりに平和学習をする」と答えるでしょう。

具体的にいうと、時間に余裕がある時に、自分のまちにある『平和ではなかった頃の跡』を探してみるのがです。これは、広島や長崎に限った話ではありません。探す場所は、防空壕の跡や慰霊碑など、数え切れないほどあります。歴史を伝える施設に行くことは平和について考えるうえで重要ですが、そのような施設だけでは伝えきれない事が多くあるのも事実です。当時の社会が抱えていた問題・その頃の空気・人々の様子などの資料は私達のそばで今も息をしており、私達はそれに気づくことができるのです。

自分の足で歩き、自分の身をもって、情報を収集する。座って平和を学ぶのももちろん大切なことですが、このような屋外の学習を通して得られるものもたくさんあると私は思うのです。

平和なまちにするために

《中学生の部 銅賞》

長束中学校三年 坂田 月子

わたしが考える「平和なまち」は、そこで暮らす人々が衣・食・住に不安を感じない場所だ。寝る時に、「明日が来ること」を疑わず、コツコツと毎日を過ごす事ができることを平和というのではないだろうか。そう考えた時に、私にできることは三つある。まず一つ目は、近隣の清掃だ。それは大規模ではなく、隣三軒分でも良い。割れ窓理論と言うらしい。清潔にしておくことには、目に見えない効果もある。二つ目は、「食」に関する活動だ。フードバンクでも、こども食堂の様な場でも良い。「和」という漢字は、人々の口に穀物がある事を意味すると以前に聞いたことがある。等しく穀物が行き渡ってこそその平和だと思う。三つ目は地域の人との交流だ。その活動は趣味や遊び、学びなど何でも良い。人の事を知り、また相手に自分を知ってもらう事、時には煩わしい時もあるだろうが、顔が見える関係を築く。どれも小さな事だが、私にできる取組だ。そして、どれも他の誰かから強制される事も強制する事もない自由な意思で行うものである事が重要だ。

平和を感じられるまち

《中学生の部 入選》

牛田中学校一年 一瀬 彩花

ポーンドレミファソ。学校からの帰り道、音楽の先生の家の前を通ると、よくこの音が聞こえてくる。その音はピアノの練習曲だろうか。この音を聞くといつもあの出来事をおもいだす。

小学四年生の時私は先生に誘われ、歌の習い事に入った。その習い事では、主にみんなで劇の練習をしている。劇の発表会の時私は先生の言葉で平和を感じた瞬間があった。それは、「戦争中には、こんなこともできなかったんだよ」という言葉だ。劇の発表会ステージからたくさんのお客さんの顔が見える。こんなにもたくさん人の前で劇ができる。戦争中には、できなかったことが今できている。これが平和ではないかと感じた。

そして私は戦争をテーマにした劇の練習をしている。戦争の劇を通して、今できていることのありがたさを伝えていきたい。また、劇を続けていきたい。私が、劇を見て、やってみて平和を感じたように劇を続けることで私たちの町が平和を感じられる町になると思う。

小さな力を大きな力に

《中学生の部 入選》

東原中学校一年 沖本 遥音

あなたは、平和を感じて暮らせるまちにするために自分にできることがあるか考えたことがあるだろうか。私は、一人一人の意識で平和なまちをつくることができると思う。

まずは、身近な人とコミュニケーションをとることが大事だと思う。例えば、親切な言葉を使ったり思いやりの心を持つ。そうすることで優しさがうまれる。それから、教育を受けることも自分たちができる取り組みに繋がると思う。様々な視点から考える力を身に付けることでより広い視野を持つことができる。誤った情報に惑わされず正しく理解し、知識を深める。これらは、平和を感じて暮らせるまちにするために、自分たちにもできることのひとつだと思う。

このように、日常生活の小さな言動・行動に目を向け、より広い視野で物事を考える。人それぞれの意見を尊重し合うことが私は大切だと思う。一人一人が意識することとで小さな力となる。多くの人で言動・行動を意識し小さな力を積み重ね、だれもが平和を感じて暮らせるまちにしていきたい。

「ありがとう」の一言で

《中学生の部 入選》

城山北中学校一年 田上 桜

みなさんは、「ありがとう」と感謝の気持ちをちゃんと伝えることができているだろうか。

感謝の気持ちを伝える、ということとは簡単なようで難しい。「ありがとう」の一言を言いそびれてしまうことは、悲しいけれどよくあることだ。例えば、家事を親がしてくれている場合、当たり前のように感じてしまい、「ありがとう」を言いそびれてしまう。でも、誰かが物を拾ってくれた時のように、困っている時に助けてもらった時のように、感謝を伝えられたなら、それはすてきな事だと思う。「ありがとう」はたった一言だけど、大きな力を持っている。誰かが心配してくれた時の「嬉しい」という感情を「ありがとう」で伝える。それは、心配してくれた人を安心させ、「心配して良かった」と思わせる言葉である。

このように、感謝の気持ちを伝えることはとても大切である。よく言いそびれてしまう人は、すぐく小さな事にも「ありがとう」と言ってみよう。「ありがとう」は人にとって大切な言葉。たくさん言って、平和な町にしていきたいと思う。

小さな幸せ

《中学生の部 入選》

安佐中学校一年 竹本 心町

私が平和を感じるときは、たくさんの人が助け合っているときです。

数週間前、私の友達が右手を骨折して学校へ登校して来ました。みんなすごくおどろいていて、その子の所に集まりました。利き手だったので、字を書いたりするのも難しいようでした。そのことを知ったクラスメイトは、たのまれたらやる、ではなく、「これ持つよ。」とか、「これ、やとくよ。」と、自分からすすんで助けになっていました。それは、友達だけでなく、クラス全体が行っているように見えました。自分では気付けなかったことも、大勢の目で見ると気付けることがあります。それによって、何かを解決できたり、困っている人を助けたりできるかもしれません。

手伝いをした人も、してもらった人も、小さな幸せが生まれます。その人数が多くなるにつれ、幸せも大きくなっていきます。小さな幸せを大切にして、世界中の多くの人が協力し、助け合っていけば、平和が広がっていくのではないのでしょうか。

小さな平和

《中学生の部 入選》

安佐中学校一年 生徒

私は、登下校中に橋をわたります。その橋の下の川にはたくさん生き物がいて、コイやサギ、カルガモなどをよく見かけます。ある日の登校中、カルガモの親子が引っこしをしていました。私はその光景を見てすごく心がいやされました。朝から気分が上がり憂うつな気持ちで少し明るくなりました。その日から「小さな平和」を見つけるようになりました。見つけることによって落ちこんでも前向きになるし今日もがんばろうと思えるからです。この「平和」をつくるのは私たちだと思います。なぜなら、私たちが一人一人少し意識すれば変わるからです。例えば、ポイ捨てをしない、自然の生き物を傷つけないを守ること。「一つの命」だということを忘れないでほしい。「一つの命」これは世界中の人たち全員に共通します。今もどこかで戦争している、それは「一つの大切な命」をうばっているというところで、戦争をして戦いたくもないのに戦い命を落としている人が大勢いることを忘れず、自分にできる、「小さな平和」を守ってほしいです。

スポーツは世界を結ぶ

《中学生の部 入選》

早稲田中学校二年 竹下 虎太朗

「笑顔を絶やさず、ケンカをしない」

平和にするには、と考えると、こんなことを思い浮かべる。でも僕はずっと笑顔じゃなくてもいいと思う。ケンカをしてもいいと思う。なぜなら「ずっと笑顔で」なんて「ケンカをしない」なんて、苦しいと思うから。

スポーツは自分を「自由」に表現することができる。ときには、うまくいかないことも、悲しいこともある。しかし、それが自分を成長させてくれると僕は思う。多くの人とぶつかり、高めあい、協力しあうことが平和につながるのではないかと考える。そして、スポーツが身近なことだからこそ、一人一人が平和への第一歩を踏み出せるのだ。

Ｗ杯、ＷＢＣ、全世界が熱狂するこのときに、人々は共に笑い、助けあう。これこそ平和だと呼べるのではないだろうか。

スポーツは平和につながると思う。そして、だからみんなもスポーツに親しんで欲しい。小さいことからでもいいから、スポーツを楽しもう。それが平和へと繋がる一歩だと僕は信じている。

優しい気持ちを地域から

《中学生の部 入選》

織町中学校二年 中井 環芭

私の通学路には、心がほっこりして平和を感じる場所があります。それは、栄橋ひろばの花壇です。地域の方がボランティアで花壇づくりに取り組まれています。

何だか足取りが重く、下を向いて登校してしまう日も、ここを通れば不思議と色とりどりに咲き誇る花壇の方へ視線が行き、お花が「前を向くんだよ」と背中を押してくれます。毎朝私に「頑張れ！」とエールを送ってくれるこの場所は、私にとって一番身近で明るく優しい気持ちになれるピースポットです。

下校時には時々、花壇の手入れをされるボランティアさんを見かけます。お花や地域のために活動される方を見て、私もいつか誰かの心の片隅に彩りと優しさをお裾分けできる人になりたいと思うようになりました。そのためにはまず外に出て、色々な地域の活動に触れていきたいです。そして、周りの人を幸せにするヒントを探すのです。

ボランティアの皆さん、素敵な花壇をありがとうございます。おかげさまで、今日も私は優しい気持ちになりました。

勇氣の一言

《中学生の部 入選》

落合中学校二年 益原 和花

おはよう、いつてらっしゃい、これから部活？がんばってね、お帰りなさい、その一言で、いつもより明るい気持ちで、平和を感じて過ごすことができる。

私は、学校の登下校、部活に行くときによく声をかけられる。地域の方々があいさつをしてくれたり、応援してくれたりする。とても嬉しくて、私も返事をする。でも、自分からあいさつをすることがあまりないことに気がついた。してもらえると嬉しいけど、自分からはあまり勇氣が出ず、できないのだ。

ある日、私が学校に行くときに、よくあいさつをしてくれる二人の地域の方と会った。そこで私は「チャンスだ。」と思い、勇氣をだしてあいさつをしてみた。すると、二人の地域の方は笑顔であいさつをしてくれた。私はとても嬉しかった。

私が、平和を感じて暮らせるまにすることはむずかしいかもしれない。でも、ほんの少しの勇気で、色んな人を少しでも明るく、平和を感じてもらえるようにすることはできる。その「勇氣」を大切にしていきたい。

みんなで考えよう

《中学生の部 入選》

祇園東中学校三年 大江 美海

私たちが平和を感じて暮らせるような町になるために、できることがある。それは、原爆のことについてもっと多くの日本人に知ってもらうことだ。広島に住んでいる私達は小さい頃から八月六日に起きたことについて聞かされていたが、そうでない人にとってはまだまだ馴染みがない話だからである。東京から引越してきた友達や鶴の折り方を知らないと言った時はみんなで驚いたものだった。子供だから、ではなく、子供だからこそ、私達が伝えていくことに意味があるのだ。被爆者やその遺族から聞いた話を同世代の人たちに伝えていったり、原爆についての話をまとめてSNSに発信したりするなど、現代だからできる方法で被爆者の方の当時の経験や辛い思いを知っていてもいい。

以上のことから、平和を感じて暮らせるような町になるためにできることは、少しでも多くの人に原爆について知ってもらうことであると考えてる。八十年前のことだから知らないのではなく、自分ごととしてこの悲しい出来事に向き合っていくことが大切だ。

平和につながる環境

《中学生の部 入選》

安西中学校三年 田中 美羽

私は、平和を感じて暮らせる町とは、環境が整っていて清潔な町だと思う。

なぜなら、家族で町内会の清掃活動に参加したときに実感したからだ。私はたまに参加しているけど、よく缶やペットボトル、たばこの吸い殻が落ちていることがある。さらに、自分の家の前にもごみが捨てられていることがある。目の前が歩道だから、歩く途中でポイ捨てしたのだろう。平気でポイ捨てをして町を汚染していくと考えると、とても不安な気持ちになった。しかし、町内会の清掃活動で地域の人のごみを拾ってくれて、清潔な環境になると、気持ちもすがすがしく安心した。清潔な環境こそ安心できる。安心できると自然と町全体が平和になっていくと気付いたのだ。そこで、自分がポイ捨てをしないことや、清掃活動にもっと参加しようと思った。

登校を見守ってくれる人、あいさつをしてくれる人など、いろんな人に支えられながら暮らしている。そういう人達が安心して暮らせるように、私は積極的に清掃活動に参加し清潔な環境の町にできるように心がけたい。

みんなで食べるということ

《中学生の部 入選》

宇品中学校三年 藤井 美羽

私は、平和というものは誰かと共に食事を取ることにあると思う。

私がまだ幼いころ、夜に少しの間留守番をしたことがあった。その時、母は私の大好きなカレーを用意しておいてくれた。そのカレーを食べ始めた時、なぜかおいしく感じられなくて、不安な気持ちがあふれてきた。その時、ごはんがおいしいのは、「おいしい」を共有できる人がいるからだということに気がついた。

世の中には、「おいしい」を共有できず、あの時の私のような不安な気持ちをかかえている人がたくさんいる。そこで、私の地域では、子どもに無償で食べ物と食べる場所を提供する活動が行われている。以前、その場所を訪れた際には、大人から子供まで楽しそうに食事を取る風景があった。私はその時、日常にある平和を実感した。

みんなで食事を取れる環境は、もつとまちを豊かにすると思う。そのために、これから地域の活動に積極的に参加し、楽しく食事を取れる環境をつくっていききたい。

《作文部門》

高校生・一般の部

1 2

作品

当たり前の日常を守るために

《高校生・一般の部 金賞》

広島皆実高等学校二年 坂本 あゆ

当たり前だと思つて過ごしている日常は突然なくなつてしまう。地震、津波、豪雨など、いつ起こつてもおかしくない自然災害の前に私たちは無力だ。

今年の三月、私は能登半島地震の復興ボランティアに参加した。看護師を目指している私は、災害時にこそ役立ちたいと思い参加を決めた。一日目は避難所で炊き出しや衛生看護科として学んだハンドマッサージを行った。被災者の方はとても喜んでくださり、学んだことを役立てられることが嬉しかった。二日目は被災した町の様子を見たり、実際に民家の土砂の運び出しを行った。

災害は突然、私たちを襲ってくる。いざ、災害が起こった時には、私たち若者が率先して避難所を運営し、お年寄りや小さい子供たちを守るようになりたい。衛生看護科で学んでいる知識と技術を実践でも役立てることができるよう、これからもボランティアに参加し、災害現場で被災者の方を支える看護師としての力を磨きたい。そして、私たちが住む地域を私たち自身で守っていききたい。

思いやる心

《高校生・一般の部 銀賞》

広島修道大学ひろしま協創高等学校 生徒

平和を感じて暮らせる街にしておくためにはまず、「無関心にならないこと」が大切だと私は思います。たとえば、電車で困っている人がいたら声をかける、身近で小さなトラブルがあったら見て見ぬふりをせず、大人に相談すること。そうした行動が、人と人との信頼を生むと思います。私は去年、公園で外国から来た子どもと遊んだことがあります。言葉は少ししか通じなかったけど、笑顔で遊ぶうちに自然と仲良くなりました。文化や言葉は違っても、相手を知ろうとする力があれば思いは伝わるのだなと思いました。平和とは、ただ「戦争がない、起こらない」というだけでなく、人と人との「心の距離が近い」ということも、平和を構成する上で最も重要なものだ、私は思います。けんかをしたり言い争いをする前に相手を思いやる、その一歩が平和であり、これを人々が少しずつ実践していくことで大きな力になります。私もこれらの未来の平和を守るために、相手を思いやる心を大切にしていきます。

平和と声

《高校生・一般の部 銅賞》

美鈴が丘高等学校二年 高木 慶人

私には、毎日の楽しみがある。それは、下校中に通る近所の公園から聞こえる、子供たちの「声」だ。その声を聞き、元気だなあと思い癒される、その瞬間に私は平和を感じる。

この声を守るために私たちができることはあるか。そう考えた時に、二つの案が思い浮かんだ。一つ目は子どもの安全を守ることだ。近年、高校生が自転車で子どもを轢くという事件がかなり増加している。そのため、私たちが安全運転を心掛けることが、子供の安全を守ることにつながると考える。二つ目は、ポイ捨てをしない、もつと言えばごみを拾うことだ。ごみだらけの公園で遊びたいという子どもはいないだろう。そのため、私たちがごみを減らすことで子どもが遊びやすい環境を作ることが大切であると考ええる。

核兵器を失くすだとか、犯罪を止める。そういったことを私たちがするのはとても難しいだろう。そのため、私は子どもたちの「声」というとても小さい、だけれどとても大切な身近な平和を守れるように努力することが、私たちにできることであると考えている。

貰った平和、繋げる平和

《高校生・一般の部 銅賞》

広陵高等学校二年 西村 美愛

平和とは。広島で半生を過ごした私は当たり前前に幾度も考えた。最も身近な争いは、恐らく人間関係の諍いだ。それは正義同士の衝突から始まるが、正義は人の数だけ存在する。まちは人の集団だ。では衝突を回避することで平和を感じられるのではないだろうか。

近頃ある新任の先生とご縁がありお話させていただく中で、ふと平穏を感じ自身の性格や考え方の悩みを相談した。それは以前他人に否定されたと感じた悩みであり、その人と衝突した挙句、二度と人に明かすまいと決心したものであった。先生と会話を重ね、その平穏の源を模索し辿り着いた答えがある。相手を否定せず一度受け止める、ということだ。

以前悩みを否定されたと感じた際の自身について振り返った。私が相手の正義を一度受け止められていれば、恐らく平和が保たれた。

以上を踏まえ、平和は相手を受け止めることで始まると考えた。まずは私が変わるつもりだ。先生のように誰かに尊敬される存在になることで波及を作り、諍いを和らげ、平和を感じられるまちづくりに貢献したい。

安心して暮らせるまちに向かって

《高校生・一般の部 入選》

広島修道大学ひろしま協創高等学校一年 泉 美佑

私の家族は、地域の自治会の活動に積極的に参加しています。地域で行われるイベントや運営の協力など、人との関わりを一つ一つ大切にしています。また、すれ違う人にはしっかりと挨拶をするように心がけていて、そうした積み重ねが安心感や信頼につながると感じます。

私は、活気があり、地域のつながりが強いまちがこの先も続いてほしいと思っています。そのためには、まず自分自身が地域の一員であるという意識をもち、周りの人と関わっていくことが大切だと思います。私の考える「平和」とは、遠い世界のことや、自分たちでつukれないものではなく、身近な人とのつながりの中から生まれてくるものだと思います。なので、地域の人とすれ違う時には気持ちの良い挨拶をし、地域の行事に自分から参加するなどしてまちに関わっていきたいと思いました。他にも、毎日まちのために動いてくださっている地域の方に感謝を忘れないことや、自分にできる小さなことを通して、平和なまちづくりに貢献したいです。

あいさつでつながる社会

《高校生・一般の部 入選》

広島修道大学ひろしま協創高等学校一年 齋藤 ちひろ

あなたが朝起きて一番にあいさつする人は誰ですか。

私をはじめにあいさつするのは家族ですが、家を出ると登校中の小学生や、ペットの散歩をしている男性、全ての人にあいさつをします。朝、笑顔で気持ちの良いあいさつをすることで、地域の活性化にもつながります。それだけでなくあいさつをすることで自然と会話が広がり、地域の絆も深まります。

ではなぜあいさつが平和を感じることにつながるのでしょうか。それは、あいさつは心の扉を開くカギになるからです。気分が乗らない朝でも、人にあいさつをすると一日を良いスタートで送ることができます。私も実際に気分が落ち込んでいたときに「おはよう」と友達に声をかけてもらい元気が出た経験があります。

このようにあいさつには、人と人との心をつなげる役割があるのです。みなさんも家族や友達だけではなく、地域で私たちを支えてくれている人や、感謝の気持ちを伝えたい人にあいさつをしてみるとよいかもしれません。

挨拶

《高校生・一般の部 入選》

広島文教大学附属高等学校一年 津田 桃香

「おはよう。いつてらっしゃい。」

私は高校生になってから、晴れの日も雨の日も駅まで自転車で登下校している。その駅では、毎朝駐輪場にいる警備員の方がみんなに挨拶をしている。私は、警備員の方の「おはよう」と「いつてらっしゃい」に元気をもらっている。

ここ数年、挨拶をしている人が少ないと思わないだろうか。歩きスマホをしている人。イヤホンをつけながら歩いている人。下を向いて歩いている人。外にいるとき、人との関わりを断っている人がとても多いのだ。関わりが少ない、周りを見ていないとき、自分の住んでいる地域のことがひとつも分からなくなっているかもしれない。

これからを生きる私たちにとって、地域を知ることがとても大切だ。誰もが生きやすく、毎日を笑って過ごせるために、私は挨拶を大切にしたいと思う。身近な人から挨拶をつなげ、世界中の人が挨拶をし合える世界を目指したい。

平和を感じて暮らせるまちにしていくなために自分たちにできること

《高校生・一般の部 入選》

広島修道大学ひろしま協創高等学校二年 赤木 悠

僕の考える平和を感じる暮らしとは、地域の人とコミュニケーションをとることだと思います。まずは挨拶が一番大事なのではないでしょうか。僕は相手が挨拶する前に自分から挨拶をするようにしています。気持ちの良い挨拶は心と心が通じる瞬間になると考えるからです。次に多様性を受け入れることです。僕の通う学校では留学生の受け入れをしており、国際交流をする機会がたくさんあります。国際交流をすることにより異なる意見や文化を持つ人を理解し尊重する姿勢が争いのない関係を築く土台となります。積極的に相手の話に耳を傾ける、最後まで話を聞くことで理解を深め信頼関係が生まれると思います。社会とのつながりを大事にすること、これも地域の平和につながると思います。僕の通う学校では地域のボランティア活動もしています。ゴミ拾いをしたり、地域のお祭りの手伝いをしたりして交流を深めています。特別なこと、大きな事をするのではなく、まずは、身近なことから始めていき小さなことでも良いからすることが大切になってくると思います。

みんなで育てるやさしいまち

《高校生・一般の部 入選》

広島皆実高等学校二年 砂口 吏佑

私が「平和」を感じるのは、団地の階段で小さな子供に「おはよう」と声をかけられた時や、帰り道で友達と他愛のないことで笑い合う瞬間です。特別な出来事がなくても、誰かと自然につながれる日々の積み重ねが、「このまちは安心するな」と思わせられます。

そんな日常を守っていくためには、私達一人ひとりが「誰かの支えになる意識」を持つことが大切だと感じます。小さな子の危ない行動に気づいて声をかけたり、無視やいじめを見逃さず、そつと間に入ったりと、そうした行動が地域の中に信頼ややさしさを広げていくと信じています。

また、身近な人とのコミュニケーションを大切にし、「話す」「聞く」「伝える」を丁寧に重ねていくことが、まちの空気をやわらかくし、安心感を生み出すと思います。

平和とは、ただ静かであることではなく、「誰かの存在がやさしく感じられる空間」だと私は思います。だからこそ、大きなことはできなくても、私なりのやさしきで平和を育てていきたいです。

平和な街づくり

《高校生・一般の部 入選》

広島修道大学ひろしま協創高等学校二年 高橋 すずらん

私は、フィリピン留学の際に、大きなゴミ山を見て、とても衝撃を受けました。たくさんのゴミが積み重なっている中で、多くの子供達が生活していました。私は、自分自身が今、日本で安全できれいな街に住めていることがどれだけ幸せなことなのかということを感じかされました。平和で安心して暮らせる街は、きれいな環境や人々の思いやりがあつてこそ成り立つのだと思いました。だからこそ、私たちにできることは、まず身近な場所のゴミをきちんと捨てたり、道をきれいにしたりすることだと思います。そして、困っている人に優しく声をかけること、思いやりをもつこと、日々の生活に感謝をすることも大切なことだと思います。一人でも多くの人が少しずつ気をつけて行動することができればもっと平和で豊かな幸せなまちを造り上げていくことができますと思います。私もこれから、将来のことを見据えて、自分の幸せを大切にしながら、周りの人や街を思いやり、今私にできることを積極的に行動に移していきたいと思います。

ボランティアは平和を造る

《高校生・一般の部 入選》

美鈴が丘高等学校二年 濱本 和奏

私はボランティアが地域を平和にしていると思います。私は学校で、あすなろ会というボランティア部に入部しています。そのためよくボランティアに参加し、主催者の方とお話することもあります。主催者の方はみんな口をそろえて「この企画で助けられる人がいたらいいな」「笑顔になってほしいな」とおっしゃるのです。私はそれを聞いていつも、素敵な考えだなと思います。あすなろ会は、地域の小学生と関わるボランティアをよくやっています。子どもたちは最初は緊張した様子がありますが、段々笑顔になっていき、終わる頃には「ありがとう」「バイバイ」と言って帰っていきます。その言葉で私はボランティアをしてよかったという気持ちになれます。このような企画はボランティアをする側が参加者を笑顔にすると思われがちですが、私は参加者もボランティアの人を笑顔にしていると思います。ボランティアはこの関係があるから成り立つのではないかと考えます。だから私は地域を平和にするにはボランティアが大切だと思います。

平和な町にしていくために

《高校生・一般の部 入選》

広島修道大学ひろしま協創高等学校二年 生徒

私は平和を感じながら暮らしていくために特別なことをする必要はないと思う。自分ができる小さな行動を重ねていくことが大切だと思う。たとえば、地域の祭りに参加して、準備や片付けを手伝ったり、掃除ボランティアに参加して、公園や道路をきれいにすることもその一つだ。私は実際に、夏祭りで屋台の準備を手伝ったとき、普段あまり話さない地域の人たちと交流をすることができて、新しい発見がありました。また、公園の掃除では、地域の方に「ありがとね」と声をかけてもらい、少しでも役に立てたことが嬉しかった。こうした小さなかわりこそが、安心して暮らしていく社会につながっていくのだと考えました。たとえば、今すぐ目に見える変化がすぐにはなくても、私たちが住んでいる地域全体に、信頼やささいな思いやり、優しさが生まれていくことが、平和な町、平和な社会への第一歩だと思います。これからは、自分になにができるのかを見つけて一歩ずつ続けていきたいです。

《漫画・イラスト部門》

7
作品

被爆電車と虹

《漫画・イラスト部門 金賞》

戸坂城山小学校二年 升田 雄大

ぼくは、でん車に、のっているときが、へいわだとかんじます。

でん車に、のると、まだみたこともないけしきが、みえるからです。

これから、ずっとそんな見たこともないけしきを見られるようにせかいがへいわであってほしいと思います。

そのために、ぼくは、でん車があん心して走れるせかいをつくるために、みんなとなかよくしたいです。



優しい町 早稲田

《漫画・イラスト部門 銀賞》

早稲田小学校六年 北代 さくら

これは私たちが安全に登下校できる早稲田の町をかいた絵です。見守りたいの方に
対して私はいつも元気良くあいさつをしています。

きれいに手入れされた町では犯罪が起きにくいと習ったので、私の家では花だんに
花をうえ、地域のせいそう活動に取り組んでいます。



毎日であたりまえじゃない!!

《漫画・イラスト部門 銅賞》

己斐小学校三年 山下 千尋

もうこんなことで人をくるしめたり、かなしませたり、しよく物や動物もそのときはすごくうるしかったから、もうせんそうをしないでという気持ちでかきました。

毎日であたりまえじゃないから一日一日いろんな物にかんしゃしてすごすようにできるとにかきました。

平和



毎日はおたはえじゃない、
~~せん~~

私達の平和

《漫画・イラスト部門 銅賞》

二葉中学校二年 岡田 紗枝

平和な町をつくるには
日々の細かい積み重ね
人々の協力
平和にしようとする心持ち
それをみんなは
話し合うべきだ
と思う。

やさしきは、みんなでつなぐ。

《漫画・イラスト部門 入選》

楽々園小学校四年 加藤 花奈

この絵は、やさしさをみんなでつないだら、みんなやさしくて、しあわせになれるという気持ちをごめてかきました。ハートいっぱいのもちにしようは、みんないつものしくて、やさしいきもち、人のことを考えるまちにしようというきもちをごめました。これからも平和なまちにすみたいからこの絵をかきました。



へいわな世界

《漫画・イラスト部門 入選》

楽々園小学校四年 藤尾 紗羽

この世界がいつまでもへいわであることをかきました。

この世界のへいわがなん年もつづくようなせかいをかいてみました。



ニコニコみんな

《漫画・イラスト部門 入選》

青崎小学校五年 高橋 千汰

この絵は、みんなが平和でニコニコしているとところを想像してかきました。



登 録 番 号	広 G7-2025-466
名 称	令和7年度 青少年からのメッセージ
発 行	広島市こども未来局こども青少年支援部
所 在 地	広島市中区国泰寺町一丁目4番15号
発 行 年 月	令和7年11月